


 たもつ
日野 保
 管理部 次長

管理部で次長を務める日野保さんは、1989年（平成元年）に南星キャリアックス株式会社へ入社し、現在は総務全般の業務を担っています。これまでにはドライバーを務めた経験もあり、様々な努力を重ねてきました。失敗も含め、思い出に残る出来事について伺いました。

——**入社の経緯や、当時の様子を教えてください。**

以前勤めていた職場は、大手電機メーカーのエアコンを製造する工場です。システム管理用の巨大なコンピュータを動かすオペレーターとして、2年間勤めたのち、父の紹介で南星キャリアックスに入りました。

本社の総務部で事務の手伝いを1年ほど経験してから、営業部へ異動しましたが、当時はバ

ブル経済の世の中で、とにかく人手不足。配送担当としてトラックを運転していました。2トントラックは問題なく運転できていましたが、翌年に異動した小牧営業所で任されたのは4トントラック。とにかく仕事が山のようにあったため、未経験を理由に乗らないわけにはいきません。運転できるようになるまでは、なかなか大変だったという思い出があります。

——**4トントラの運転には、どのような苦労がありましたか。**

それまで扱っていた2トントラックとは車幅も異なりますから、最初はその感覚がつかめず、苦勞の連続です。曲がろうと大回りして工場の雨どいに当たってしまったたり、壁にこすったり。バックの際、工場の屋根にぶつ

——**これまでの中で、最も印象深いお仕事についてお聞かせください。**

社内全体を管理するシステムの入れ替え業務が印象に残っています。以前使っていたのは「マイトール」というソフトでしたが、徐々にエクセルやワードでの作業に移行していききました。給与計算でもマイトールを使っていたので、それらのデータもすべて新システムへ移行。最初はなかなか思うように動かず、試行錯誤していました。

総務の仕事の中には1年に一度しか行わない作業もあるため、それらも含めると、すべて移行させるためにかかった期間は2〜3年ほど。色々と工夫して完了させ、なんとか軌道に乗せられたときの安堵感は忘れられません。

——**休日の過ごし方や趣味について教えてください。**

20代の頃からプロ野球観戦にハマり、コロナ禍以前は年に数回、ナゴヤドームに足を運んでいました。長男も野球が好きで、就職する前はよく一緒に観にいったものです。中日ドラゴンズはもちろん、ほかのチームの試合も観ます。学生野球やアマチュアの試合との違いは、勝負にかける真剣さ。プロ野球選手は自分自身の生活がかかっているのですから、なおさらですよ。どんなシーンでバントをするか、サインは何を出すか……といった戦略面も見どころです。

夢は、日本全国の球場巡り。北海道にも新しい球場ができるので、いつか観光を兼ねて行ってみたいと思っています。

30年以上も勤め続けられた秘訣は、「くよくよしないこと」。親譲りだという前向きな姿勢で日々の仕事に向き合う日野さんは、これからも円滑な職場づくりのために力を尽くしていくことでしょう。

けてしまうという失敗もありました。ハンドルの切り方も、2トントラックとはまるで違います。状況に合わせた運転の仕方を少しずつ覚えていきました。

当時は目的地に到着するのも大変だったと記憶しています。今のようにカーナビなどではなく、頼りになるのは地図帳のみ。内容が正確ではなかったのか、よく道に迷っていました。田舎の方は人通りが少なく、道を尋ねようにも声をかけられる人がいません。仕方なく民家のインターフォンを押し、目的地までの道順を聞いて回っていました。出てきた家主が外国の方で、日本語が通じずに焦ったことも。今は運転前の研修制度も整っている上に、ナビゲーションも正確になっていきますから、安心ですね。

